

慶応三年六月二十一日より慶応三年六月廿四日まで

P8310693right

廿二日辰 晴雲

内山へ転進賀品鯉節一折遣す、藤山へ暑見舞(砂糖折)、産見舞(水飴一□)出生児(袖口地)為持遣す、福井(寿)、小林(松)

齐田(禮)、岩藤(乙)来り面す、出 殿、須崎(常)より使して暑見舞団扇に真瓜一籠贈り
越旨、山本(次郎)脩脩

同断来り、鯉券(二方)贈りし旨、笠原常同断鮑五□持来り旨、辰弥来る、番町礫川へ太郎を暑見舞に遣し夫々雑品あり、番町隠居来る、暑見舞(京蛤)残品(下け緒胸組三)箱入持来
一杯を勧む

文吉、栄助、弥一、楽太一同告別に来り面す

廿三日巳 晴雲

宅調(*1)、山崎(銀)、高梨(寛)、本庄(脩)来り面す、原(喜)より加州産墨落雁一大折贈り来る
細谷(秀)

家内暑見舞として鮑三、鮓一折持来、霜糖一折結糸三□酬い遣す、山本(次郎)へ昨の挨拶

P8310693left

として右鮑に砂糖一重を遣す、富沢叔母告別に来り、佃煮、味噌漬類等持来、山本(次郎)来り川崎某の儀頼聞る、伊藤(幸)弘馬代持来し呉る、右三名何れも酒肴を勧む

廿四日午 晴

塚原より押し懸け一具残贈来る、須崎(常)より御用召吹聴状来る、稲垣(藤一)来り煙草箱入を
残贈

す、橋本(喜)、有泉(敬○勝安房(*2))の自書持来)来り面す、石野(□)へ過日借用の飯台椅子飯台
□け等返し霜糖を贈り

遣す、広沢家内来り砂糖一折、団扇三持来、暑中見舞也、出 殿、金港より過日廻し越す霜糖代
九円を三坂に増□助へ托す)、明日発途の積り有し処、老岐守殿御不來図書頭、仏館尋問に付

明後日

発途と決し本日は空敷退出、富沢(大)来り兵庫御用留□類一箱受取行く、且三井へ
命ぜし為替手形、添手紙とも持来す、太郎へ借用時斗謝りて蒸菓子一大折を

*1:宅調、自宅での調査の仕事

*2:勝安房は勝海舟と思われる

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。